

- ✓ 気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組に加えて、流域に関わる関係者が、主体的に取り組む社会を構築する必要。
- ✓ 「流域治水」の考え方にに基づき、堤防整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域から氾濫域にわたる流域のあらゆる関係者※で水災害対策を推進。 ※国・都道府県・市町村・企業・住民等

「流域治水」への転換

- あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により、地域の特性に応じ、①～③に示す対策を総合的かつ多層的に推進し、「流域治水」へ転換

＜これらの取組を円滑に進めるため、河川関連法制の見直しなど必要な施策を速やかに措置＞

① 氾濫をできるだけ防ぐ

集水域

ためる、しみにさせる

【県・市、企業、住民】
雨水貯留浸透施設の整備、ため池等の治水利用
※グリーンインフラ関連施策と併せて推進

グリーンインフラの活用
自然環境が有する多様な機能を活用し、雨水の貯留・浸透を促進

雨庭の整備（京都市）



河川区域

ためる

【国・県・市、利水者】
治水ダムの建設・再生、利水ダム等において貯留水を事前に放流し水害対策に活用

安全に流す

【国・県・市】
河床掘削、砂防堰堤、雨水排水施設等の整備

氾濫水を減らす

【国・県】「粘り強い堤防」を目指した堤防強化等

大雨が予測される場合
事前放流
利水ダムに貯留する事前放流
利水管理

③ 被害の軽減・早期復旧・復興

氾濫域

土地のリスク情報の充実

【国・県】水災害リスク情報の空白地帯解消等

避難体制を強化する

【国・県・市】河川水位等の長期予測の技術開発、リアルタイム浸水・決壊把握

経済被害の最小化

【企業、住民】工場や建築物の浸水対策、BCPの策定

住まい方の工夫

【企業、住民】不動産取引時の水害リスク情報提供、金融の活用等

支援体制を充実する

【国・企業】官民連携によるTEC-FORCEの体制強化

氾濫水を早く排除する

【国・県・市等】排水門等の整備、排水強化

② 被害対象を減少させる

氾濫域

よりリスクの低いエリアへ誘導

【県・市、企業、住民】
土地利用規制・誘導、移転促進、金融による誘導の検討等

被害範囲を縮小さす

【中】二線堤等の整備

□：想定される対策実施主体 県：都道府県 市：市町村

流域治水プロジェクト

- 令和元年東日本台風で甚大な被害を受けた7水系の「緊急治水対策プロジェクト」と同様に、全国の1級水系において、河川対策、流域対策、ソフト対策からなる流域治水の全体像をとりまとめ、国民にわかりやすく提示
- 戦後最大洪水に対応する国管理河川の対策の必要性・効果・実施内容※等をベースに、夏頃までに関係者が実施する取組を地域で中間的にとりまとめ、早急に実施すべき流域治水プロジェクトを策定 **＜令和2年度中に策定＞**

※現行計画では、国管理河川で約7兆円の事業を実施中

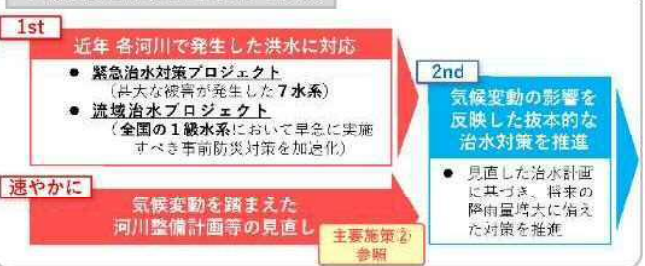
＜イメージ＞



利水ダムの治水活用

- 全国の1級水系（ダムがある99水系）毎に事前放流等を含む治水協定を締結し、新たな運用を開始 **＜令和2年出水期から＞**
- 2級水系についても同様の取組を順次展開

今後の水害対策の進め方



「流域治水プロジェクト」の公表

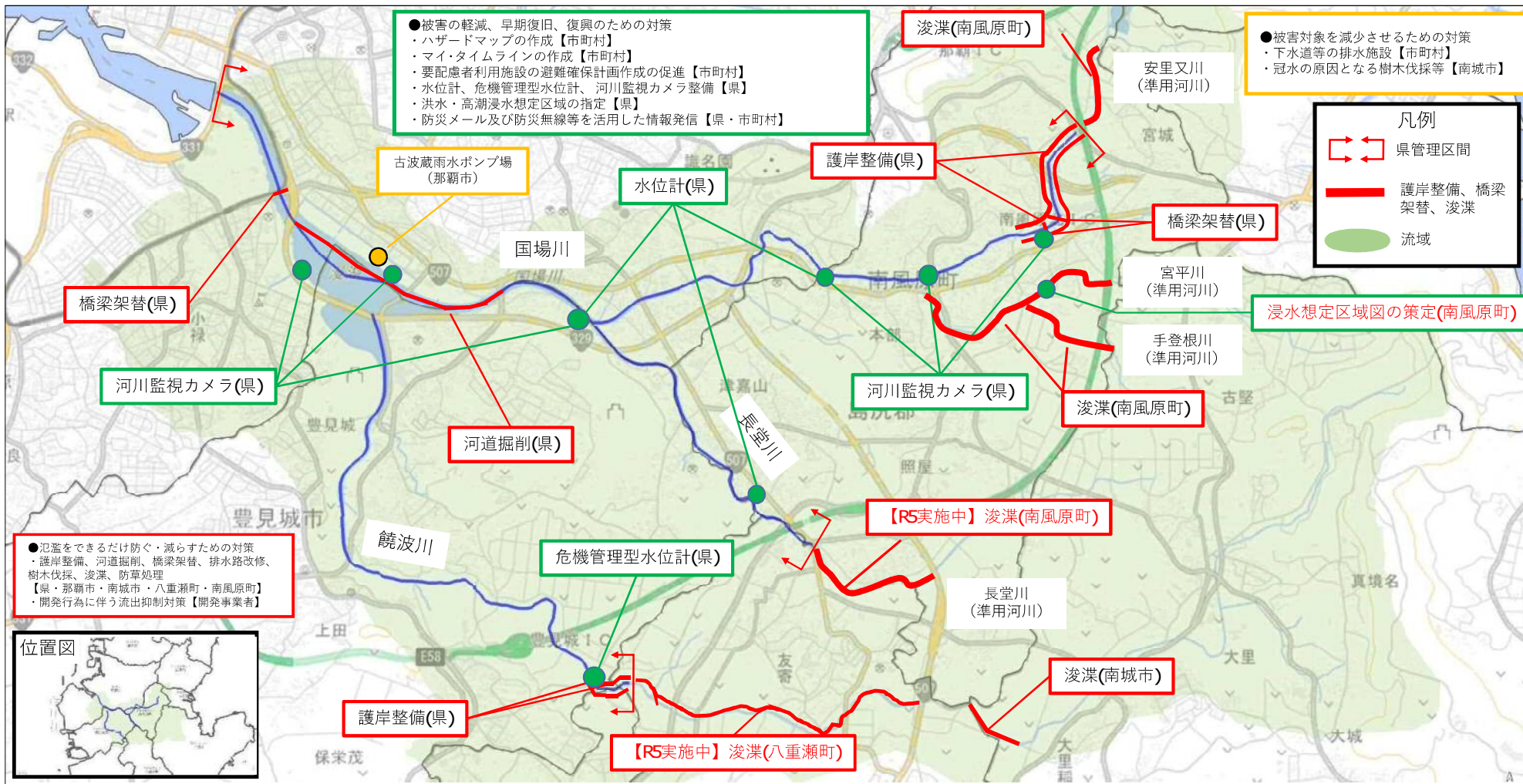
令和3年8月公表

	水系名（県管理：二級河川）	関連市町村（市町村管理：準用河川）
①	屋部川水系（屋部川、西屋部川）	名護市
②	比謝川水系（比謝川、与那原川）	沖縄市、うるま市、読谷村、嘉手納町
③	小波津川水系（小波津川）	西原町
④	国場川水系（国場川、饒波川、長堂川）	那覇市、糸満市、豊見城市、南城市、西原町、与那原町、八重瀬町 南風原町（安里又川、手登根川、宮平川、長堂川）

令和4年2月公表

	水系名（県管理：二級河川）	関連市町村（市町村管理：準用河川）
⑤	満名川水系（満名川）	本部町（伊野波川）
⑥	我部祖河川水系（我部祖河川）	名護市
⑦	大保川水系（大保川）	大宜味村
⑧	億首川水系（億首川、幸地川）	恩納村、金武町
⑨	天願川水系（天願川、川崎川）	沖縄市、うるま市（ヌーリ川、川崎川、米原川）
⑩	白比川水系（白比川）	北谷町
⑪	安謝川水系（安謝川）	那覇市、浦添市
⑫	安里川水系（潮渡川、久茂地川、真嘉比川、安里川）	那覇市、南風原町
⑬	報得川水系（報得川）	糸満市、南城市、八重瀬町
⑭	謝名堂川水系（謝名堂川）	久米島町
⑮	田原川水系（田原川）	与那国町

○二級河川国場川の未整備区間においては、河川断面が狭小なため、浸水被害が発生しており、平成11年9月の台風18号においては、浸水戸数163戸、道路冠水などの被害が報告されている。このことから、未整備区間となる平原橋から上流に向けて河川改修を実施し、整備区間の計画洪水規模の出水に対する対策や避難のためのソフト対策に取り組み、浸水被害の軽減を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

○国場川では、上下流の流域全体を俯瞰し、県、市町、住民や民間企業等が一体となって、以下により「流域治水」を推進する。

【短期・中期】 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策は、護岸整備、河道掘削及び橋梁架替等の河川改修を集中的に実施。被害対象を減少させるための対策は、下水道等の排水施設整備による浸水被害軽減を図る。被害の軽減、早期復旧、復興のための対策では、ハザードマップ・マイタイムラインの作成等、要配慮者利用施設の避難確保計画の策定や避難訓練を促進するほか、危機管理型水位計等の整備による防災体制の強化を図る。

【中長期】 河川改修後の河道状況を把握し堆積土砂除去を行うなど、各施設において適切な維持管理を実施。被害の軽減、早期復旧、復興のための対策では毎年フォローアップを実施し、防災体制の改善・強化に繋げていく。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期（概ね5年間）	中期（概ね10～15年間）	中長期（概ね20～30年間）
● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	・護岸整備、河道掘削、橋梁架替、排水路改修、樹木伐採、 浚渫 、防草処理	県、那覇市、南城市、与那原町、南風原町、八重瀬町			
	・開発行為に伴う流出抑制対策	開発事業者			
● 被害対象を減少させるための対策	・下水道等の排水施設整備	那覇市、豊見城市、与那原町、南風原町			
	・冠水の原因となる樹木伐採等	南城市			
● 被害の軽減、早期復旧、復興のための対策	・危機管理型水位計の整備 ・水位計、河川監視カメラの整備 ・ 洪水・高潮浸水想定区域の指定	県、南風原町			
	・ハザードマップの作成 ・マイタイムラインの作成等 ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進	那覇市、豊見城市、南城市、西原町、与那原町、南風原町、八重瀬町			
	・防災メール及び防災行政無線等を活用した情報発信の強化	県、那覇市、豊見城市、南城市、西原町、与那原町、南風原町、八重瀬町			

国場川水系
流域治水プロジェクト

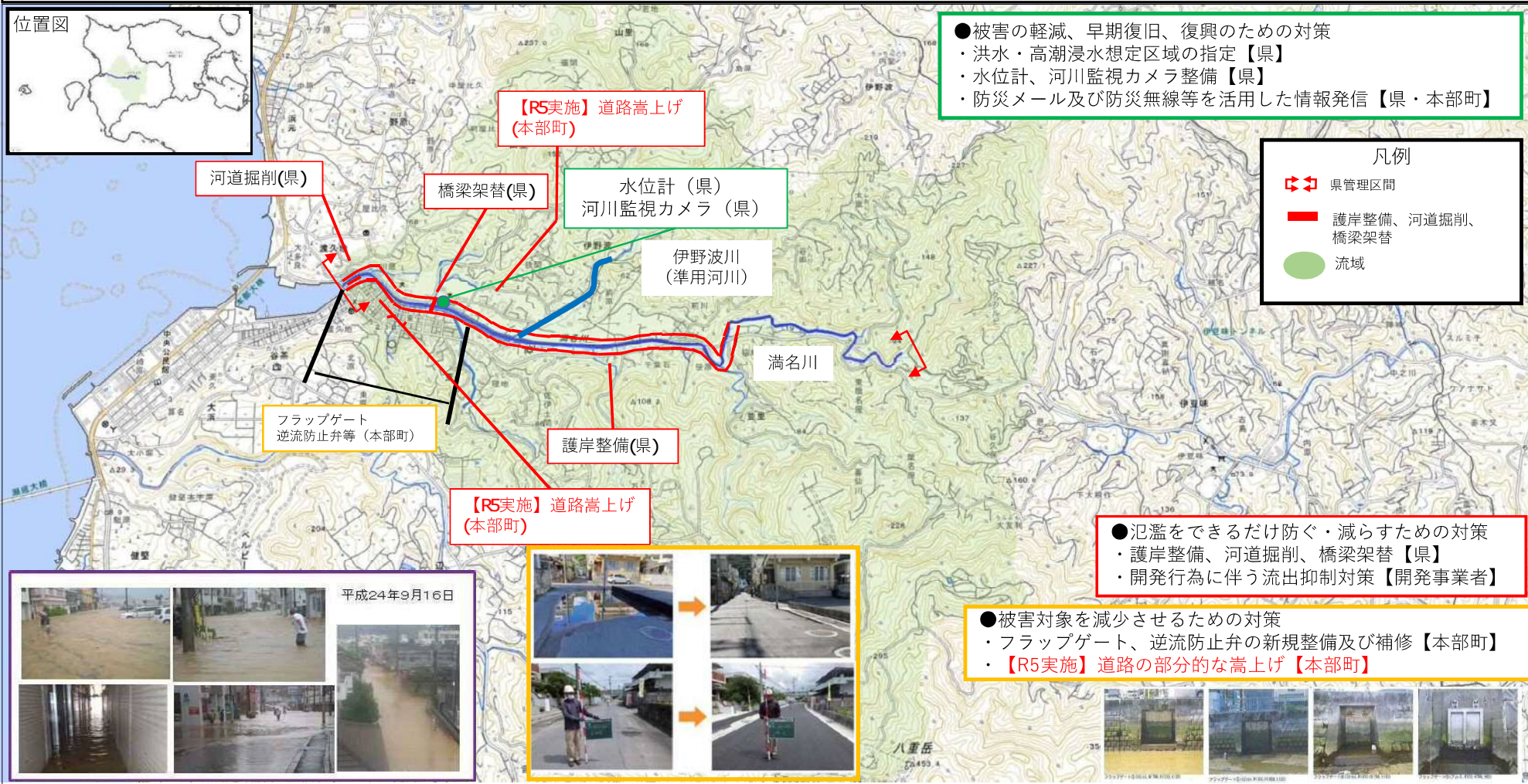
浸水被害軽減・逃げ遅れゼロ

【凡例】

- 破線：事業中、取組中
- 実線：維持管理、フォローアップ等

満名川水系流域治水プロジェクト

○満名川は、沖縄本島北部の本部町に位置し、下流部には、町役場、小中学校、郵便局等の公共施設が集中している。平成24年9月の台風16号においては、床上・床下の浸水被害が発生しているため、整備区間の計画洪水規模の出水に対する河川整備や避難のためのソフト対策等に取り組み、流域における浸水被害の軽減を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

二級水系
流域治水プロジェクト

満名川水系流域治水プロジェクト

【ロードマップ・効果】

沖縄県

満名川では、上下流の流域全体を俯瞰し、県、町、住民や民間企業等が一体となって、以下により「流域治水」を推進する。

【短期・中期】 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策では、護岸整備や河道掘削、橋梁架替等の河川改修を集中的に実施。被害の軽減、早期復旧、復興のための対策では、フラップゲート、逆流防止弁の新規整備及び補修、道路の部分的な嵩上げを行うほか、水位計、河川監視カメラ整備による防災体制の強化を図る。

【中長期】 河川改修後の河道状況を把握し堆積土砂除去を行うなど、各施設において適切な維持管理を実施。被害の軽減、早期復旧、復興のための対策では毎年フォローアップを実施し、防災体制の改善・強化に繋げていく。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期（概ね5年間）	中期（概ね10～15年間）	中長期（概ね20～30年間）
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	・護岸整備、河道掘削、橋梁架替	県			
被害対象を減少させるための対策	・フラップゲート、逆流防止弁の新規整備及び補修 ・【R5実施】道路の部分的な嵩上げ	本部町			
被害の軽減、早期復旧、復興のための対策	・水位計、河川監視カメラ整備 ・洪水・高潮浸水想定区域の指定	県			
	・防災メール及び防災無線等を活用した情報発信	県、本部町			

満名川水系 流域治水プロジェクト

浸水被害軽減・逃げ遅れゼロ

【凡例】

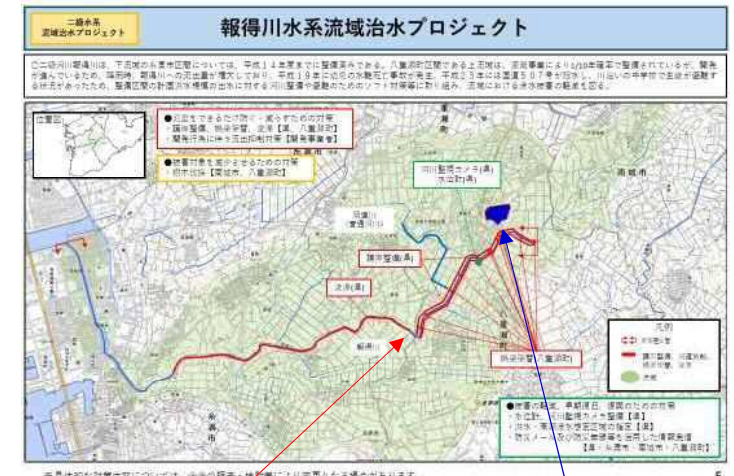
- 破線：事業中、取組中
- 実線：維持管理、フォローアップ等

「報得川流域治水プロジェクト」について

- 東風平中学校の浸水被害が度々起こっている。
- 流域治水プロジェクトに学校関係者は含まれていない。
- 流域関係者で**緊急的な対策**を検討する必要がある。

⇒令和5年11月に、関係者を集めて、今後の対策を検討する会議を開催。

関係者：**沖縄県**（河川課、下水道課、南部土木事務所、**教育庁**）、**八重瀬町**（土木建設課・**学校教育課**）、東風平中学校代表者



護岸整備（県）

東風平中学校

※護岸整備は下流から行うため、上流での整備には時間を要する。

報得川上流 東風平中学校・国道507号ヘンサ橋の浸水状況(平成23年11月9日)



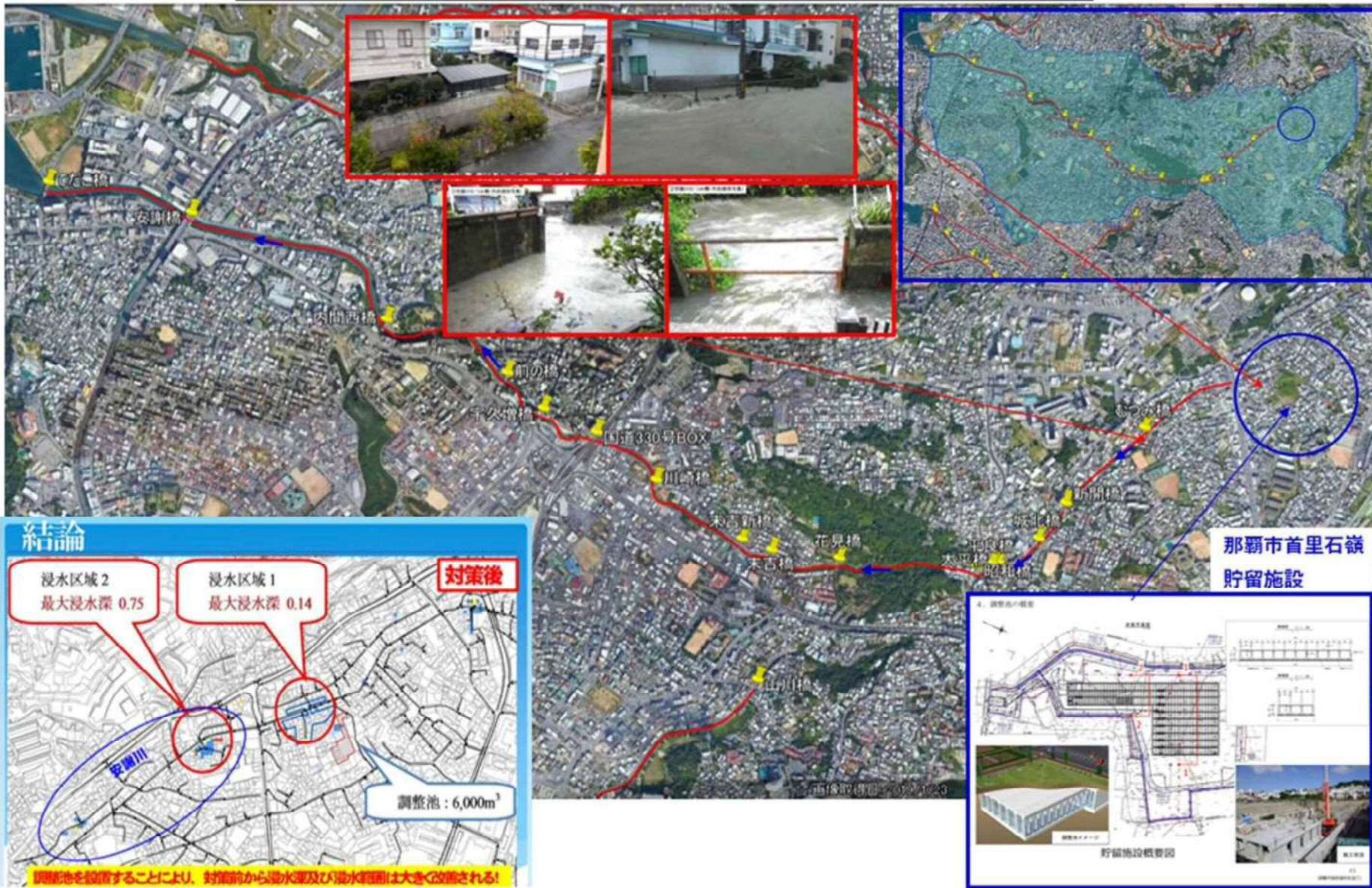
浸水時写真 東風平中学校・東風平町役場ヒアリング時提供のH23.11.9撮影



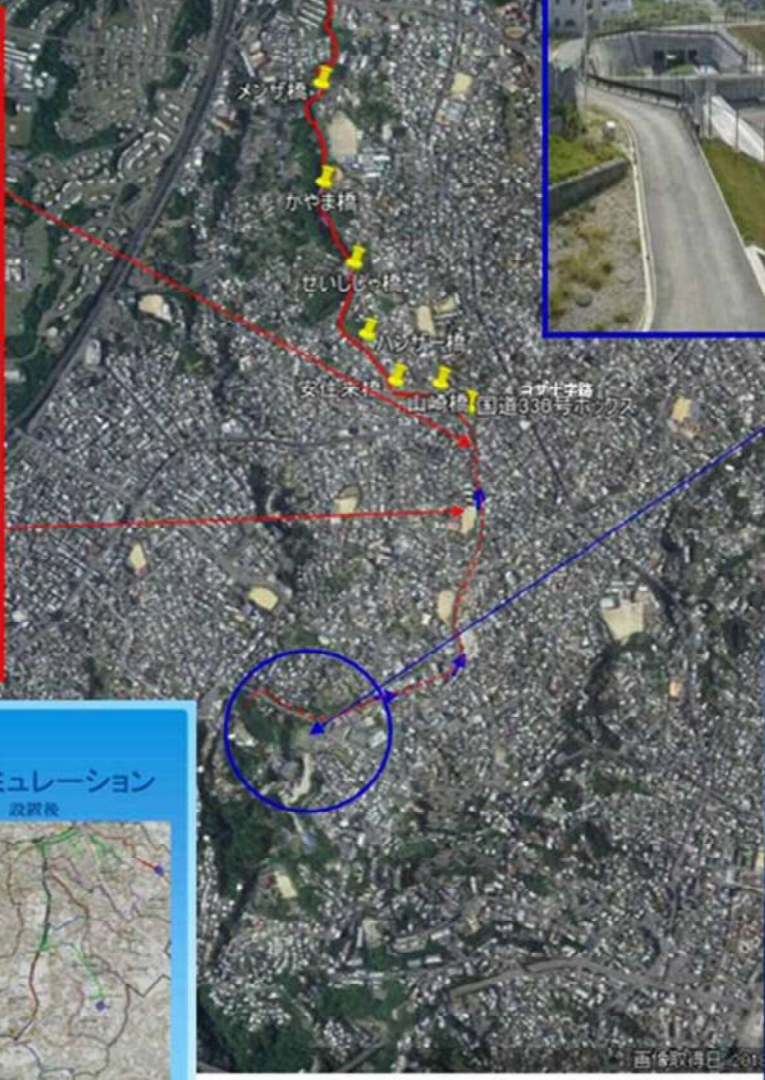
▲過去の被災状況写真（東風平中学校付近）

流域治水に係る先駆取組事例

安謝川（首里石嶺町雨水調整池貯留施設：那覇市）



比謝川（安慶田雨水調整池貯留施設：沖縄市）



●安慶田雨水調整池設置効果

●1/10年確率降雨87mmによるシミュレーション

設置前 設置後

調整池

調整池を設置したことにより、浸水面積は大幅に減らすことができ、十分な効果が表れた。

白比川（山里雨水調整池：沖縄市島袋小学校）

